

講座 18	近世日本の政治思想史				オンライン併用
	【会場定員】96名		【オンライン定員】100名		【受講料】 2年会員11,440円 1年会員12,870円 聴講生17,160円
	『政治・経済・社会』政治・社会		【時間】 毎回13時00分～14時30分（計12回）		
概要	戦国時代末期から幕末維新时期にかけての「近世」日本の政治思想史を講義する。近世思想史を五つの時期にわけて、思想と社会的背景との関連、思想自体の論理内在的な変化、西洋や東アジアの他地域との比較、従来の研究史の検討などに留意しつつ、全体を概観する。				
回	月/日(曜)	会場	学習内容	講師名(敬称略)	
1	4/12 (水)	川崎市 生涯学習 プラザ	現代の我々が近世日本の政治思想史を学ぶ意味について	東京大学名誉教授 平石 直昭	
2	4/19 (水)		武士政権によるキリシタン禁教の経緯と思想を考察する		
3	4/26 (水)		徳川幕府の全国支配の政策と儒教との関係を考察する		
4	5/10 (水)		徳川日本で最初に流布した宋学の歴史と理論を紹介する		
5	5/17 (水)		近世前期の代表的思想として伊藤仁斎の儒学を論じる		
6	5/24 (水)		17世紀後半から18世紀にかけての日本社会の変容をみる		
7	5/31 (水)		近世中期の徂徠学がもつ精神革命的な意義を検討する		
8	6/7 (水)		庶民層の自覚の高まりを示す石門心学とその背景の分析		
9	6/14 (水)		太宰春台と海保青陵に即して経世思想の展開をみる		
10	6/21 (水)		本居宣長が儒学に代わる国学を創造した経緯を分析する		
11	7/5 (水)		後期水戸学の国体観が反キリスト教思想であることの検討		
12	7/12 (水)		「近代西洋」を媒介とする新儒学の構想—象山と小楠		